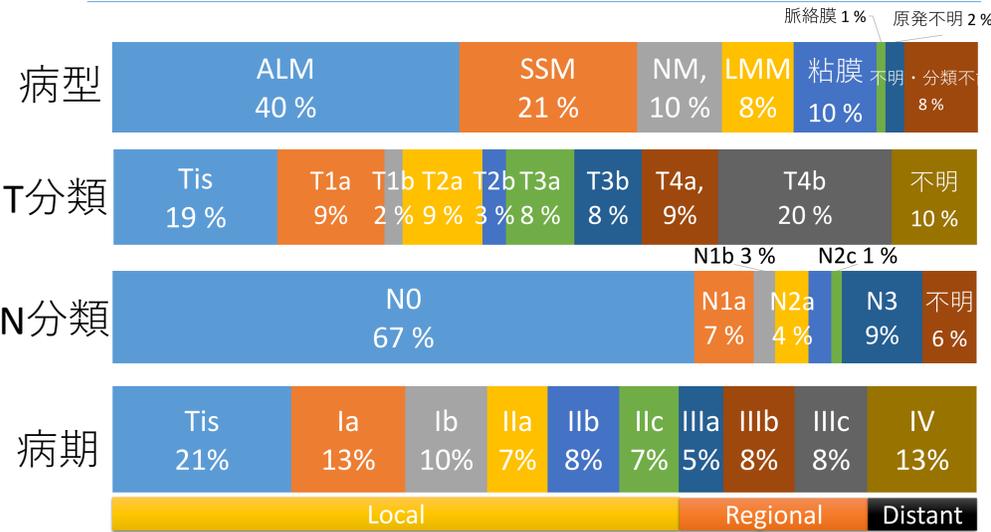


Japanese Melanoma Study: Annual Report 2016

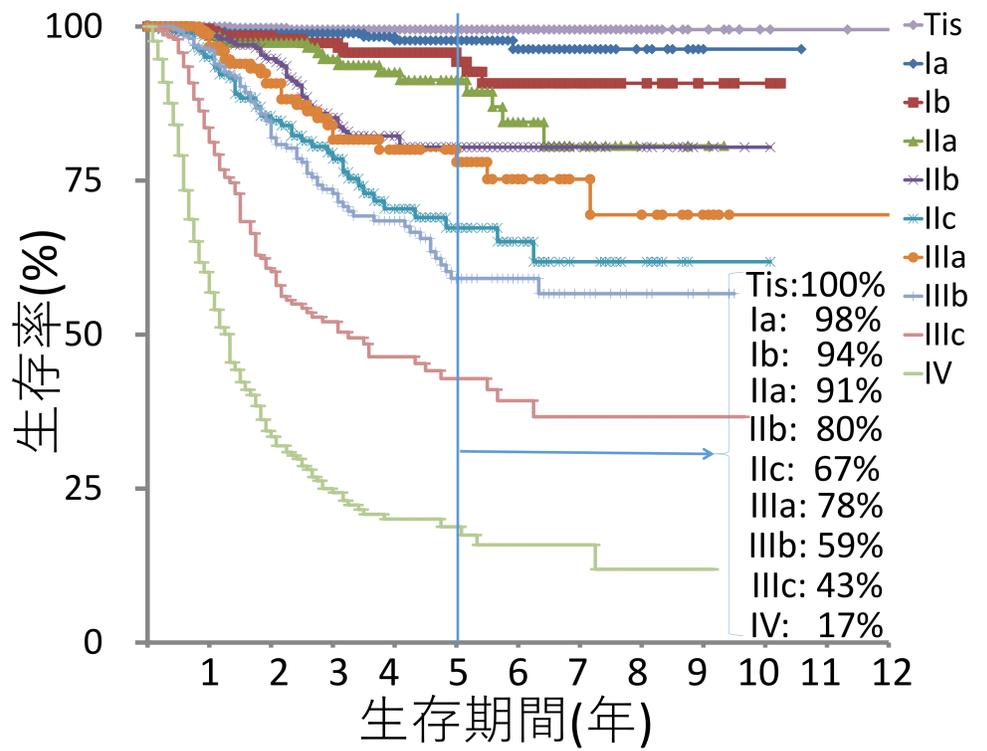
皮膚悪性腫瘍学会皮膚がん予後統計委員会担当委員：藤澤 康弘（筑波大学）

総症例数：4239症例

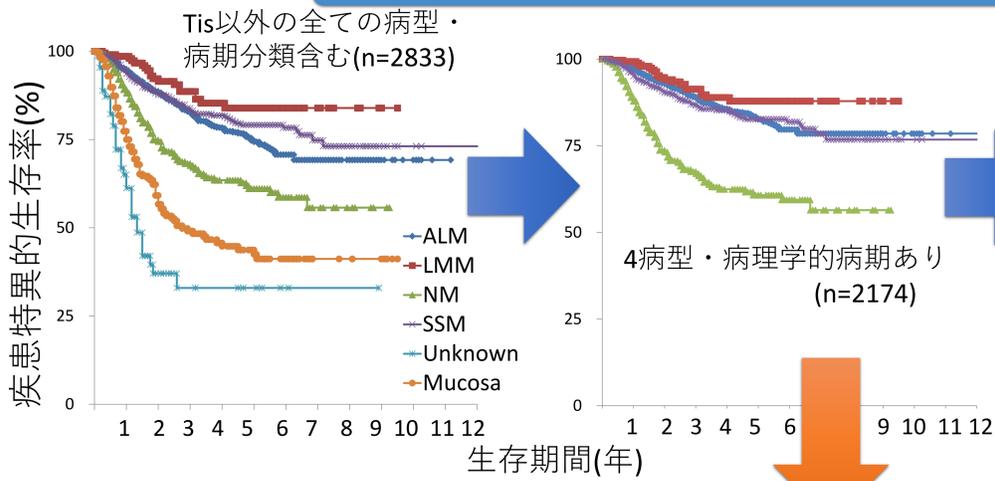
年齢		受診までの期間	
平均	64.0歳	平均	69.9ヶ月
中央値	66.0歳	中央値	24.0ヶ月
性別		他腫瘍あり	
男性	1,949例	他腫瘍あり	333例
女性	2,287例	家族歴あり	96例



疾患特異的生存率 (数字は5年生存率)

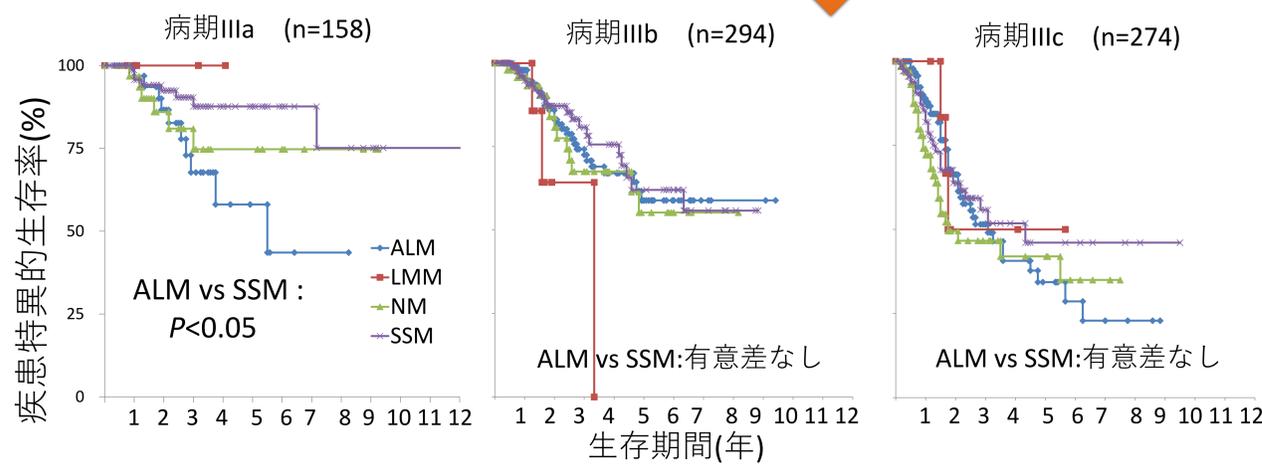


病型で予後に違いがあるのか



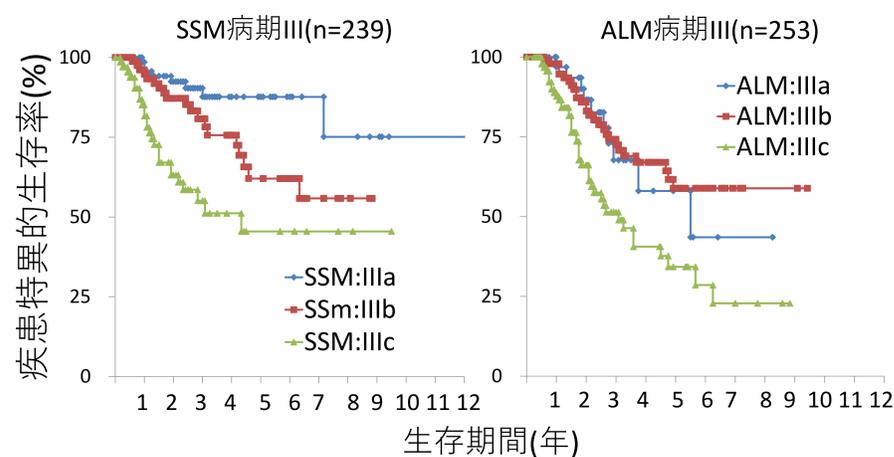
因子	ハザード比	95%信頼区間	P値
臨床病型 (基準カテゴリ:SSM)			
ALM	1.043	0.800~1.359	0.755
NM	1.282	0.951~1.727	0.103
LMM	1.041	0.638~1.697	0.871
T分類(1~4,連続変数)	1.857	1.646~2.095	<0.0001
N分類(0~3,連続変数)	1.282	1.511~1.845	<0.0001
M分類(0 or 1)	3.350	2.484~4.516	<0.0001

TNMと予後は相関するが、病型と相関はなし



病期IIIaにおける多変量解析			
因子	ハザード比	95%信頼区間	P値
臨床病型 (基準カテゴリ:SSM)			
ALM	2.974	1.126~7.854	0.0278
NM	1.197	0.398~3.592	0.748
LMM	-	-	-
T分類(1~4,連続変数)	1.816	1.118~2.950	0.016
N分類(0~3,連続変数)	1.496	0.656~3.415	0.338

病期IIIaではALMとDSSが相関



なぜALMのIIIaはSSMと比較してDSSが悪いのか？

- * 症例背景は同等（年齢，性別など）
- * T1a:T2a比はほぼ同じ，平均Breslow's thicknessも2.59と2.62mm
- * N1a:2a比は1:0.41 vs 1:0.69とN2aの割合がALMで高い
 > カイ2乗検定ではP=0.21と有意差なし，多変量解析でもIIIaでは予後とN分類との相関はみられず（上記表参照）

* トータルで見るとALMとSSMの予後は変わらない
 > 病型ではなく，TNMそれぞれが独立した予後因子

* 病期IIIaのみALMの予後がSSMより不良 > 要因は不明

研究協力施設 (26施設)

新潟県立がんセンター	286症例	竹之内 辰也 先生	大阪市立大学	212症例	加茂 理英 先生
神戸大学	161症例	藤原 進 先生	筑波大学	174症例	藤澤 康弘 先生
静岡がんセンター	476症例	清原 祥夫 先生・吉川 周佐 先生	東京大学	40症例	山田 大資 先生
国立がんセンター	173症例	山崎 直也先生・並川 健二郎 先生	東北大学	102症例	藤村 卓 先生
埼玉医科大学医学部附属病院	90症例	緒方 大 先生	日本医科大学	124症例	帆足 俊彦 先生
埼玉医科大学国際医療センター	202症例	中村 泰大 先生・寺本 由紀子 先生	浜松医科大学	51症例	藤山 俊晴 先生
埼玉県立がんセンター	55症例	石川 雅士 先生	富山県立中央病院	57症例	八田 尚人 先生
札幌医科大学	220症例	宇原 久 先生・加藤 潤史 先生	福岡大学	57症例	柴山 慶継 先生
産業医科大学	67症例	日野 亮介 先生	北海道大学	61症例	古川 洋志 先生
信州大学	375症例	皆川 茜 先生	名古屋大学	280症例	横田 憲二 先生・浦田 透 先生
旭川医科大学	164症例	上原 治朗 先生			
岐阜大学	80症例	松山 かな子 先生			
京都府立医科大学	220症例	浅井 純 先生			
九州大学	244症例	内 博史 先生			
熊本大学	214症例	尹 浩信 先生・福島 聡 先生			
虎の門病院	56症例	岸 晶子 先生			